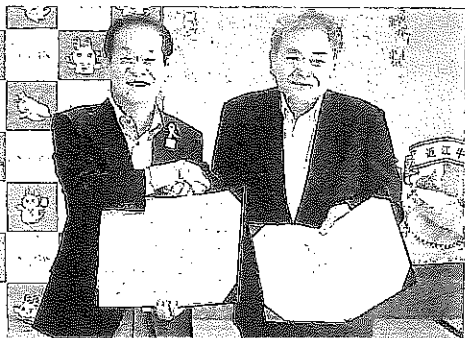


学生視点で商品開発

竜王・道の駅と滋賀短大が協定



協定を結んだみらいパーク竜王の西田社長(左)と滋賀短期大の秋山学長(右)と竜王町山之上・道の駅アグリパーク竜王

学生の視点で農産物のブランド化や地元食材を使った商品を開発しよう、竜王町で2カ所の道の駅を運営するみらいパーク竜王と、滋賀短期大(大津市)が21日、連携企画型実習に関する協定を結んだ。

学生はボランティアや授業の一環で新商品の共同開発やイベントに参加し、町を盛り上げる。道の駅「竜王かがみの里」と同短大は2015年5月、同様の協定を交わし、地元特産の高級な近江牛のスジを煮込んだ牛丼「竜王牛丼丸」など人気商品を生み出してきた。今回、対象を道の駅「アグリパーク竜王」にも広げ、協定を更新した。

同道の駅で、みらいパーク竜王社長の西田秀治竜王町長と秋山元秀学長が協定書に署名した。西田社長は「町の魅力発信につながる」、秋山学長は「小さくてもざらりと光る町と大学の連携は意義深い。教育、研究を一層深めたい」と話す。

(森敏之)

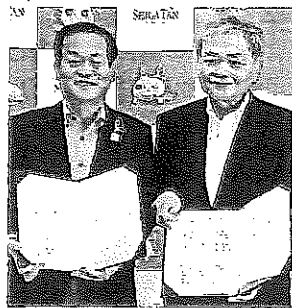
商品開発で連携へ

竜王・道の駅2つ 滋賀短大と協定

竜王町内の二つの道の駅と、滋賀短期大学(大津市)は二十一日、商品開発やイベント企画などで連携する協定を結んだ。

二駅のうち、竜王かがみの里(鏡)と同大は、二〇一五年五月に協定を締結していた。学生が考案した牛丼やパンメニューが同駅の

商品として定着するなど、連携の効果があったため、もう一駅のアグリパーク竜王(山之上)を加えて協定を結び直すことにした。



協定書を持つ西田町長(左)と秋山学長(右)と竜王町山之上で

アグリパーク竜王で締結式があり、道の駅運営会社の社長も兼ねる西田秀治町長と、同大の秋山元秀学長が、協定書に署名した。西田町長は「若い女性の発想

で新商品を作ってほしい」と期待。秋山学長は「小さくてもキラリと光る内容を持った町と大学とが、連携していくのは意義深い」と述べた。

(平井剛)